

川崎支部便り 第80号 (2024年08月)

オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長 山岸一雄 (執筆：河合・山岸))

人生を豊かに (雑学のすすめ)

【4x20+7で「87年前」？】

英語で「数える」意味の1つに **tally** という語があります。もともとは「刻む」の意味です。指は10本ですが、靴下を脱いで足の指を入れても20迄しか数えられません。競技の得点は **score** と言い、「数える」との意味です。この語にも「刻む」との意味があり、北欧語で昔、羊を数えるのに手と足の指を使い、20頭毎に棒切れ等に刻み目を入れたことに由来しています。音楽の楽譜もスコアと呼び、音符の刻み目を入れることに由来します。

20 という意味が今でも残っています。アメリカの初代大統領アブラハム・リンカーンのゲティスバーグでの演説 (1863年) の冒頭は、

”**Four score and seven years ago** …”で、4x20+7で「87年前」という意味です。

米国史上最も重要な演説の1つと見なされているエイブラハム・リンカーンの「ゲティスバーグ演説」は、アメリカ合衆国が掲げて立つ**自由と平等の原則**を表現することに成功しています。そして米国の生存のために戦い、命を落とした人々の栄誉を誇らかに称えている。リンカーンは演説の中で、米国のための「自由の新たな誕生」に言及しました。演説は**1863年11月19日、ゲティスバーグ国立戦没者墓地の開所式**で行われた。全体で**わずか2分ほどの演説**でした。

川崎点描：川崎支部活動拠点

【(鎌倉時代に武蔵国分倍河原他で戦をした?) ⑦】

(分倍河原とは?)

分倍河原は府中市の中心部にあり、かつて新田義貞が率いた関東武士団と鎌倉幕府軍との戦いが行われた古戦場があります。この戦いに勝利した新田勢は、鎌倉を目指して進撃します。鎌倉幕府滅亡へと向かう、歴史の転換点の一つが分倍河原だったのです。地名の「分倍」は旧地名からで、別に「分梅」の名もあったそうです。また「河原」は江戸期以前に多摩川の河原があったことによるといわれ、この二つの地名を合わせ、現在の名になったそうです。なお同地には京王線とJR南武線が乗り入れる駅がありますが、最初は駅開設当時の地名であった屋敷分村に由来する「屋敷分駅」の名で呼ばれていました。府中とは律令制時代(註1)に国から派遣された国司が政務を行う建物がある国府所の所在都市がある場所です。(武蔵国(註2)の国府)近くに国分寺などもあります。



(註1) 律令制時代：律令時代への準備が **645年の大化の改新** (乙巳の変・いっしのへん) をきっかけに7世紀の後期(飛鳥時代の後期)にかけて改革が始まりました。そして、**701年(大宝元年)**に**倭国から国名を日本に改め**、大宝律令を成立させて、10世紀頃(平安時代)まで続きました。

(註2) 武蔵国：律令制に基づいて設置された地方行政区分の一つで、東山道、のちの東海道に属し、現在の**東京都、埼玉県、神奈川県**の**川崎市、横浜市**となります。

(分倍河原古戦場)

(源頼朝の妹婿－稲毛三郎重成)

現在の JR 南武線の**登戸駅近く**に**枅形城跡**、**津田山駅近く**に**作延城跡**(以前ミステリーツアーで訪れた)、そしてよみうりランドの近くには**小沢城跡**があります。多摩丘陵の先端にあるこの三つの城跡は、**稲毛三郎重成**が築いたと伝えられています。平安時代末期から鎌倉時代初期の武将である重成は、**桓武平氏の流れ**をくむ秩父氏の一族で、鎌倉時代の御家人です。1180年(治承4年)8月、伊豆で挙兵した源頼朝とは平氏方として敵対しましたが、同年10月秩父一族と頼朝に帰伏して御家人になりました。その後、頼朝の正室(**北条政子**)の**妹を妻**に迎えています。そのため源頼朝は稲毛三郎重成を訪れ、**綱下げの松**(JR久地駅近く－川崎支部便りで紹介した武陽玉川八景の一景)に、御座船を繫留しました。その後重成は亡妻のために**相模川に橋**を架けた時の**落成供養**に出席した頼朝は、**帰りの道中で落馬**して命を落としています。

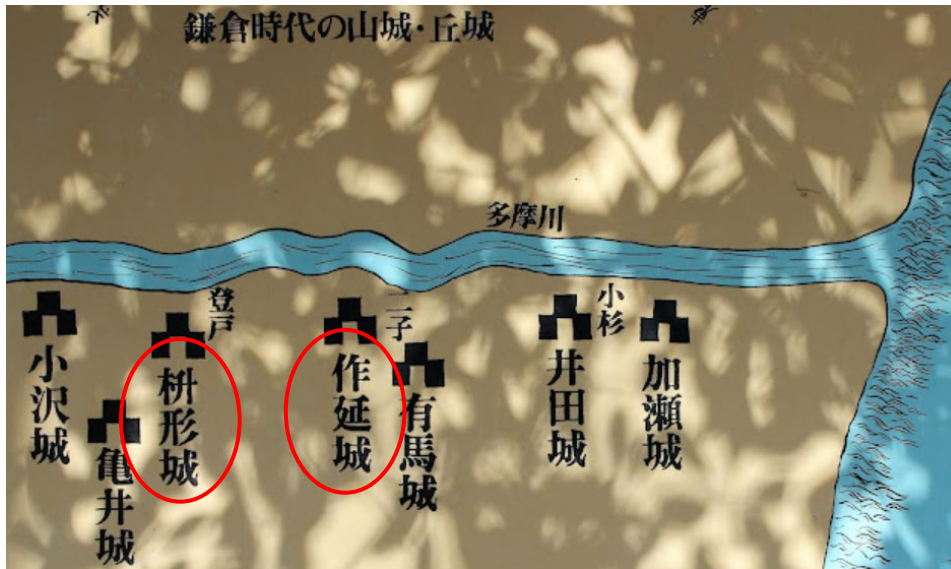
源頼朝による鎌倉時代の成立は1192年(いいくに・建久3年)の征夷代将軍に任ぜられた年と、現在高齢の方々は筆者と同様に教育されたと思います。しかしこの年が鎌倉幕府の成立だといわれる決定的な結論が無いので、年代順に学説をご紹介します。この定期便を読まれた方々はどの様に考えますか。

- ①**1180年** 頼朝が東国支配を樹立し(富士川の戦いで勝利)鎌倉を本拠地に家臣(御家人)統制する「侍所」を設置。「この時に、すでに南関東全域を支配下にしていた」
- ②**1183年** 朝廷から頼朝の東国支配権を承認する旨を下す。「朝廷が頼朝に東国限定の条件付きですが支配権を認めた」
- ③**1184年** 頼朝が主要政治機関(公文所・問注所)を設置。「政務、裁判の仕組みが整った」
- ④**1185年**(いいはこ)守護・地頭を設置して、全国の土地管理権を掌握。「頼朝は諸国に守護・地頭を置く権利を得た」
- ⑤**1190年** 頼朝が右大将(右近衛大将)。日本国総追捕使・総地頭となる。「頼朝は征夷代将軍よりさらに上位の官職の右近衛大将に任命された」
- ⑥**1192年** 頼朝が征夷代将軍に任じられた。「2年前に征夷代将軍を飛び越した官職を得ているので、改めて任命されたと考えられる」 以上様々な学説があります。

平家滅亡後、**頼朝の権力の強大化を恐れた後白河法皇**は義経に、兄頼朝の追討を命じました。それを知った頼朝は京都に軍勢を送り後白河法皇に圧力をかけ、「諸国に守護、荘園や公領に地頭を任命する

権利や、1段（反）当たり5升の兵糧米を徴収する権利、さらに諸国の国衙（律令時代の国司の役所、地域）の実権を握る在庁官人を支配する権利を獲得した。東国中心であった支配権は、国にもおよび、武家政権の鎌倉幕府が成立に至ったのが④の1185年（文治元年）かと思いますが、数ある説の一つであり、この時期を有力視するのは、昔の説の1192年に征夷代将軍に任命される前から「**実質、源頼朝を中心とする、支配体制が確立したのではないか**」と考えられるからだと思います。

（参考資料：帝国書院、東洋経済、塾講師 station 情報局）



（鎌倉時代の山城・丘城）

（源頼朝の落馬？）

しかし、頼朝が「**壇ノ浦の戦い**」で平家を倒して武家政権の頂点に立ったのが前記の鎌倉幕府設立の理由が諸説ある中で、可能性が高い1185年（寿永4年）3月、そして落馬がもとで命を落とした1199年（正治元年または建久10年）1月とすると、「源頼朝」自身が幕府の頂点に立ち、収めたのは14年間でした。

その後、頼朝の嫡男、「源頼家」（当時18歳）が1199年（正治元年）に二代目将軍を継ぎましたが、大河ドラマでも放映された様に、まだ若かったので、**北条氏中心の「13人の合議制」**による政治体制を敷きました。そして北条時政・義時父子は有力御家人を次々と滅ぼしていきました。最初は1200年（正治2年）の**梶原景時の変**です、さらに1203年（建仁3年）の比企能員（ひきよしかず・二代目将軍源頼家の乳母父であり、比企の娘が頼家の妾であり、その為比企は権勢を持っていました）の変です。

初代将軍「頼朝」の死後4年の1203年（建仁3年）に、第二代将軍の頼朝の嫡男である「源頼家」が重病になり、なぜか祖父となる北条時政によって頼家は**伊豆の修善寺に幽閉**されました。その後継は、初代将軍「源頼朝」の次男で第二代将軍「頼家」の弟である「源実朝」が、1203年9月（建仁3年）第三代将軍を継ぎました。この頃は執権・北条時政が政所別当を手に取り、北条の独裁政治の一步を踏み出していました。「実朝」は現在の政治には期待を持ってないとわかり、京都風の文化と生活を楽しむことを考えました。その為、関東武士の信頼も薄れ、1219年（建保7年）1月、第二代将軍**頼家の子共の公暁（こうぎょ）**に暗殺されてしまいました。

源頼朝が鎌倉幕府を立ち上げ、鎌倉幕府は1192年（いいくに）か1185年（いはいはこ）が鎌倉幕府成立の考えが高く、1333年（元弘3年）は鎌倉幕府滅亡で、141年又は148年の年月の鎌倉幕府中、立ち上げた**源氏一族が収めたのは28年間（約20%）、又は35年間（約24%）**でした。この期間は、頼朝の

妻の北条政子が健在だったと思いますが、自分の子共達が若くして落命していくことを、どの様に思い、どの様に見ていたのでしょうか。又、どの様に見ても考えても、「源頼朝」の予期しなかった死に遭遇して、源氏一族を排除して北条一族が日本を収めようとした驕（おご）りからの、陰謀・謀略を企てたとしか思えない歴史上の出来事と筆者は思います。

もし源義経が生きていたら、鎌倉時代の歴史も変わっていたかもしれません。さすがに北条一族も征夷大将や將軍なることは良くないと考えたのか、執権政治を通して鎌倉幕府を収めました。その内の功績の一つは、「御成敗式目（武家社会での習慣や道徳をもとに制定した、武家政権のための法令）制定し、公武が分離された）ことでしょうか。

以降、実権は北条政子を経（へ）て、北条泰時を「祖」とする幕府権力は本家（得宗家・北条時政が初代）に集中し、北条氏は將軍ではなく執権役として実権を振るいました。得宗家に反抗する名越流（なごえりゅう）北条氏等の傍流（ぼうりゅう－主流から外れた）や御家人（下級武士）は排除されました。

名越流北条氏（なごえりゅうほうじょうし）は、北条義時の次男・北条朝時を祖とする鎌倉時代の北条氏の分流です。名越の地にあった祖父・北条時政の邸を継承したことで名越を称し、母方の比企氏の地盤を継いで代々北陸や九州の国々の守護を務めました。創設当初の名越流の家格・勢力は得宗家に次ぐものでしたが、名越流からは執権・連署・六波羅探題は1名も出しておらず、要職は評定衆や鎮西探題などに留まり、その得宗家に対抗しうる家格の高さが得宗側から警戒されていたとみられたそうです。名越流はその本来は嫡流であるとの意識の強さから、たびたび得宗家と対立し、数度の討伐を受けています。

北条氏の執権政治の功績の一つは「御成敗式目」（道理と呼ばれた武家社会での慣習や道徳をもとに制定された、武家政権のための法令（式目））制定で、公武が分離されました。また執権北条時宗の時代に2度の元寇（げんこう）の襲来を撃退した武家たちから、十分な恩賞を得られなかったことによる不満が強まりました。1293年（永仁元年）には平禅門の乱（へいぜんもんものらん）が起き、鎌倉幕府を支配する北条氏得宗家で絶大な権力を振るっていた内管領の平頼綱が、9代北条貞時によって滅ぼされました。

元寇後、御家人等に対する恩賞問題が発生し、財政難のなかで3度目の元軍襲来に備えて国防を強化しなければならない等、国内外に難題が積み重なっていた中、内管領（ないかんれい－得宗家の執事で、得宗被官である御内人の筆頭）として14歳で執権となった時宗の嫡子貞時を補佐し、得宗家の専制体制の強化、訴訟の公正化、異国警護、悪党禁圧等を行っています。蒙古襲来後に、訴訟が急増していた九州には、後に鎮西探題となる鎮西談議所を設置し、鎌倉、六波羅探題にかわる専門の訴訟機関を設置しました。貨幣経済の浸透、多くの御家人の経済的な没落、御家人への恩賞不足、承認による御家人へのお金の貸し渋り等、御家人の不満と混乱を引き起こしました。後醍醐天皇による鎌倉幕府打倒は、この武士達の不満を利用しました。

（後醍醐天皇の暗闘？）

後醍醐天皇は大覚寺統の天皇で、天皇による天皇を中心とする親政を理想とし、クーデターにより武家政権の鎌倉幕府を打倒し建武の新政を行いました。その後、軍事力の中核であった実子を粛清した事と失政により失脚し、一地方政権の主として生涯を終えました。建武の新政は2年半で崩壊し、足利氏の武家政権に戻る事となり、朝廷の支配力は鎌倉時代以上に弱まることになりました。

両統迭立（りょうとうてつりつ－鎌倉時代に皇統が2つの家系に分裂し、治天と天皇の継承が両統迭立

の状態)により、実子に皇位を譲位できず、上皇になって院政を敷いて権力を握れなかった後醍醐天皇は、鎌倉幕府の両統迭立を壊すために、倒幕運動を行いました。元弘の乱で鎌倉幕府を倒して建武新政を実施したものの、間もなく足利尊氏との戦い(建武の乱)に敗れたので大和吉野へ入り、南朝政権(吉野朝廷)を樹立し、尊氏の室町幕府が擁立した北朝との間で、南北朝の内乱が勃発しました。尊氏が征夷大將軍に就任した翌年に、吉野で崩御しました。

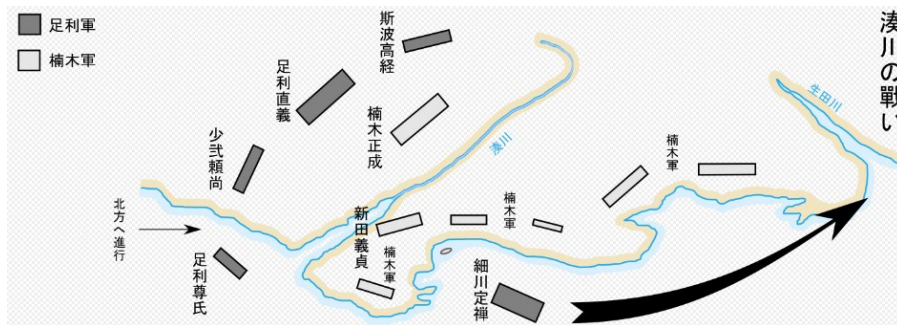


(建武新政府時の戦い)

(鎌倉幕府の滅亡?)

新田義貞が1333年(元弘3年)5月8日に挙兵し、「小手指原の戦い」「久米川の戦い」「分倍河原の戦い」そして「関戸の戦い」までの9日間、川崎市の近く、現府中市の国府の近辺で戦があったとは驚きです。更に6日後、挙兵後の150日間で鎌倉幕府を滅亡させた人馬の移動の戦いでは、当時の武蔵国の幹線道路と思われる「府中街道(川崎街道)」を、武蔵国に入った新田義貞(上野国-群馬県)が利用して攻め上がったことには考え深いものがあります。鎌倉幕府滅亡に「府中街道」が一役買っていたと考えられませんか。日本は鎌倉時代(成立案1185年・いいはこ・文治元年、1192年・いいくに・建久3年~1333年・元弘3年の148年間又141年間、更に1184年(寿永3年)~1333年(元弘3年)の149年間)から室町時代に移行した歴史上の転換期でした。

室町時代はいつから始まったのでしょうか。1336年(延元元年)5月に足利尊氏が湊川の戦いで楠木正成を破り、後醍醐天皇が比叡山に退去した時か、同年11月に足利尊氏が「建武式目(けんむしきもく)」という基本法を制定した時か、もう一つは1338年(暦応元年)8月に足利尊氏が征夷大將軍(せいいたいしょうぐん)に任命された時かと諸説あります。15代將軍義昭が織田信長によって京都から追放される1573年(天正元年)の室町幕府滅亡までの235年間~237年間まで、室町幕府は続きました。



(湊川の戦い)

(画像は Yahoo Japan から引用)

支部の活動

- ① 2024年7月5日（金）の「**殿町国際戦略拠点 キングスカイフロント**」見学会（**世界最高住準の研究開発都市**）は、母校の新聞部学生、一般者、夫婦等多くの方が参加し、一般者が入れない建物内、世界で最初の水素をエネルギーとしたホテル等を見学しました。
- ② **2024年10月19日（土）の中間総会**は、**世田谷キャンパス 1号館3階の13Q教室**で開催。
 中間総会：**13：30～15：00** 13Q教室、講演会：15：15～16：45 13Q教室
 懇親会：17：00～18：10 カフェソラ（9号館）
 お待ちしています。

ご存じですか

【東京裁判は起訴状の翻訳に間違いがある？】

東京裁判は1946年（昭和21年）5月3日、午前11時20分に始まりました。法廷は東京市ヶ谷、勝手の陸軍士官学校があった建物です。判事側は11カ国の11人で、首席検事はジョセフ・B・キーナン、首席補佐がジョン・ダルシー、一方、弁護団には団長の鶴澤總明（うざわふさあき）弁護人を筆頭に、清瀬一郎弁護人、瀧川政次郎弁護人等がいた。裁判は**英米法のやり方**で進められたので、英米法に不慣れな日本側弁護団には、アメリカ人の弁護人も数人加わった。裁判長はオーストラリア人サー・ウィリアム・フラット・ウェブ。

この裁判は**最初の数日が山場**であったと瀧川政次郎博士は後に語っています。まず裁判の冒頭で、**裁判そのものの正当性について弁護団から異議**が申し立てられました。その意義に対して**裁判長が合法的に説得できる返答が出来ません**でした。弁護団が最初に取り上げたのは、**起訴状の誤訳問題**です。東大の元教授で国際法の権威であった高柳賢三博士が「**起訴状の翻訳に間違いがある**」と指摘し、異議を申し立てました。

苛立ったキーナン首席検事が「起訴状は英文によって法廷に提出されたものであって、**日本文は単なる便宜のために作ったものである**」と口走りました。それを聞いた**清瀬一郎弁護人**がすぐさま**反論**しました。この清瀬弁護人は元来、野党の立場で活躍していた弁護人です。東京裁判では弁護団の副団長という形でしたが、**実際にはリーダー**といえる立場にあり、弁護士たちがしり込みした東條英機被告の弁護人も兼ねた人です。

清瀬弁護士はキーナン発言にこう噛み付きました。「（この裁判の成立の基礎であるマッカーサーの定めた）**法廷憲章**には、**日本語と英語両方でこの裁判を進行する**ということが担保されている。英文の起訴状を日本文の起訴状に翻訳することは、単に便宜のためでなくして、**被告人に対する公平な裁判をなす一つの担保**としてチャーターに規定されているのであります」

これにはウェブ裁判長も「**法廷憲章の規定によると、日本文の翻訳も同時に提供**することになっている」と認めないわけにはいかなかったのです。**裁判官および検事側は、いきなり出端（でばな）を挫かれました。**（渡辺昇一氏から）

次号もお楽しみに。皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

問合せ・連絡先：川崎支部 幹事長 松本浩一

TEL：090-9363-6082 E-mail：kawa_matsu51@v00.itscom.net